

平成30年度 学校自己評価表 ( 計画段階 ・ 実施段階 )

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)		
学校運営方針	1 身は健やかにして気宇ひろく、進取の気象に富んだ人物を育成する。 2 次の時代の担い手として不撓不屈の精神で、広く社会に貢献する人物を育成する。 3 伝統と文化を尊重し、わが国と郷土の発展に目翳をかざす人物を育成する。			
昨年度の成果と課題	平成30年度重点目標 具体的目標			
昨年度は「本気の文武両道」「本気の東筑魂」を掲げた教育活動の推進により、進学実績を回復し、部活動の実績を伸ばした。ただし、SSH第2期申請が不認可となったので、今年度は創立120周年を機に、より一層の「本気の文武両道」「本気の東筑魂」の実践と、主体的・対話的で深い学びを全教科科目において推進することにより、本校の目指す6つのキー・コンピテンシーを身に付けた生徒の育成に努める。	「本気の文武両道・本気の東筑魂」の実践を継続する中で、創立120周年を機に、進学実績、部活動実績をとともに伸ばす。 SSHの取組をふまえて、「身に付けた幅広い知識・技能を用いて様々な課題に対応でき、イノベーション(創発)できる力」を育成する。 SSHの取組をふまえて、「逞しいチャレンジ精神を有し、時代の変化に対応し、次世代の国際社会でリーダーとして活躍できる力」を育成する。	①高い志や意欲を持って、自らの目標を達成するために主体的・計画的に取り組む生徒を育成する。 ②勉学と部活動との両立を図るとともに、集団生活をよりよくしていくために主体的に行動できる生徒を育成する。 ③活用能力(身に付けた知識・技能を課題解決のために生かすことができる力)を育成する。 ④課題発見能力(物事を多面的に捉えたり多角的に考えたりして本質に迫ることができる力)を育成する。 ⑤創造性(自らの発想で新しい価値を生み出すことができる力)を育成する。 ⑥挑戦する能力(諦めず粘り強く物事に挑戦することができる力)を育成する。 ⑦国際性(地域を含め広く世界を見つめ、グローバル社会を意識して考えることができる力)を育成する。 ⑧コミュニケーション能力(自分の考えを的確に表現し、協調しながらリーダーシップとフォロワーシップを発揮する力)を育成する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教育推進	部活動と両立した家庭での学習習慣の確立と更なる学力の向上を図る。  教務 出席率99%以上の達成を目指す。  各教科において東筑のアクティブ・ラーニングを実践、改善する。	ライフレポートの活用・分析を行うことによって、生徒の学習習慣確立と学力向上に資する。 より高いレベルの内容に生徒が挑戦できるような授業の工夫と改善、課題の質・量の検討する。 評価方法についての検討を、各教科・科目内で更に深める。		
		学校行事やホームルーム活動の充実を図り、学校生活における満足度を向上させる。 生徒指導班・保健教育班と連携しながら、生徒の生活実態を把握し、学年で情報が共有できるようにする。 生徒の状況が教員同士で共有できるよう、ファイルを作成し、活用する。		
		研修部と連携して授業改善についての研究を各教科内で深め、研究授業等にも積極的に取り入れていく。 授業アンケートを授業改善、東筑のアクティブ・ラーニングの改善に活かす。 「学校設定教科Ti、課題研究」をより効果的に活かせるようにSSH推進班との連携を図る。		
		本校への見学、中学校等での進路説明会などの地域からの要望に対応し、地域に開かれた学校づくりを目指す。 PTA、同窓会との連携を通し、さらなる教育活動の充実を図る。 様々な機会を活用し、本校教育活動に対する理解や協力を促す。		
		全職員による協体制を確立し、儀式・式典、学校行事を円滑かつ組織的に運営する。 前年度の課題、反省を活かして、より良い儀式・式典、学校行事を企画、立案する。 記録などをもとに、儀式・式典、学校行事の細部を見直し、全体のマイナー・チェンジを図る。		
		進路相談事業や中学生体験入学の内容を充実させ、本校教育活動の地域社会への周知を図る。 様々な媒体を活用し、本校教育活動に関する情報をリアルタイムで発信する。 ホームページを定期的に更新して、最新の情報発信に努める。		
	生徒育成  生徒指導 自律した逞しさの育成  自治意識の向上  集団の質の更なる向上	基本的な生活習慣の確立 甘えを許さない姿勢の堅持 強い精神力の育成		
		生徒による、より主体的な学校行事の運営 生徒会活動の進化・発展 各委員会活動の活性化		
		安心・安全に過ごせる環境の確保 当事者意識育成の強化 いじめを絶対に許さない雰囲気・取り組みの確立		

生徒育成	保健教育	生徒が「本気の東筑魂・本気の文武両道」を実践できるような保健管理を行う。	各学年やスクールカウンセラーと連携し、悩みを抱えた生徒の把握と課題解決に組織的に取り組む。				
			定期野球大会や体育祭などの学校行事において、組織的な保健活動に取り組む。				
			ライフレポートや生徒観察シートを用いて生徒の状況を把握し、保健指導に積極的に活用する。				
		外部機関を有効に活用して生徒の健康増進を図り、イノベーションできる力の育成に繋げる。	健康診断担当医師との連携を十分に図り、健康診断を円滑に実施する。				
			外部機関との連携を十分に図り、悩みを抱えている生徒の早期発見と当該生徒に対する支援に努める。				
			医療や心療関係の専門家による研修会を企画、運営し、本校職員の生徒理解を深めるとともに、関連する事案への対応力を向上させる。				
		健康的な生活をおくることができる資質と逞しさを生徒に育む保健教育を実践する。	「性と心の健康相談」講演会等を通して、健康についての正しい知識を身につけさせる。				
			クラスマッチ、修学旅行などの学校行事や、季節ごとの病気の流行期において、適切な保健指導を行う。				
			平素の清掃活動を通して、清掃に対する自主的自発的な態度を育成する。				
	人権教育	進学、部活動を活発化させる中で、人権教育特設授業について、全職員で確実に取り組む意識と体制を継続する。	年間4回（第3学年は3回）の人権教育特設授業を担任・副担任で取り組む体制を継続していく。				
			職員会議や研修会等において、参加した人権教育に関する研修会の報告を行い教職員に還元する機会を作る。				
			特設授業に使用できるDVD等の教材を増やし、生徒の状況に即した多様な授業計画ができる体制を整える。				
家庭や学年との連携を図りつつ、各生徒の課題に対応した支援を行う。		各分掌や委員会と連携を図り、不登校やその傾向にある生徒の早期発見、早期解決に取り組む。					
		各学年、担任・副担任、事務室、養護教諭との情報交換を密にして生徒の実態把握を組織的に行う。					
		奨学金等担当との連携を密にし、経済的に不安を抱える生徒の支援体制を強化する。					
キャリア教育	志を高く持たせ、目標に対して主体的・計画的に取り組む集団を育成する。	進路イベントや講演会等や面談を通じ、志を高く持たせ、九州大学、東京大学、京都大学等に多くの生徒を挑戦させる。					
		進路の提供する各大学の入試関連情報と東筑手帳を活用させ、生徒に主体的な学習計画を立てさせる。					
		模擬試験、土曜講座、課外授業、講座別課外授業等の重要性を生徒に理解させたくうえで、目標に合ったものを積極的に選択させると同時に、魅力的な課外が提供できる環境を整える。					
	自分の将来のキャリアについて、能動的に考え、その生き方をデザインする姿勢を身に付けさせる。	能動的に希望進路を考え、個々の課題を発見させるための進路に関するHR等の充実を図る。					
		キャリア教育に関する講演会などの行事の内容を改善し、自分の可能性に挑戦する生徒を育む。					
		面談週間を活用し、多様な生徒の進路相談に親身に対応できる環境を整備する。					
SSH推進	志を高く持たせ、確かな学力を育てるための授業改善に資するSSH事業を展開する。	進路だより等を適宜発信し、進路委員の活用を進め、キャリア教育指導の充実を図る。					
		教員の教科研修や、先進校の視察、教員間のネットワーク強化、ポートフォリオを含む情報環境の整備を通じて、教員が入試の最新情報を入手しやすい環境を提供する。					
	読解力を育成し、探究する生徒を育てるSSH事業を展開する。	新テスト対応のための情報収集を行い、SSHの論コミと協力し本校独自の指導法を洗練させる。					
		キー・コンピテンシー育成の観点からの評価の方法を提案する。					
		SSH事業に係る生徒の取組をポートフォリオとして残す仕組みを確立する。					
		主体的・対話的で深い学びを実現するための備品等の整備および活用の促進を図る。					
研修	広報活動を充実させ、図書館の利用頻度を高める。	論コミを基盤とした高度な読解力育成の指導方法を研究し、実践を推進する。					
		課題研究を充実させ、深い課題設定、独創的な研究手法、論理的な表現ができ、よく聴き質問する態度をもつ生徒を育てる。					
	年間の図書貸出数の目標を六千冊とし、読書感想文コンクールにも積極的に参加する。	Ti物理などの理科学校設定科目の指導内容を充実し、その独自性を高める。					
		学研都市や企業との新しい連携のあり方を開発する。					
	集団読書会を更に充実したものにする。	3つのジュニア研修を充実させ、生徒のキャリア意識を高める。					
		高校生科学技術コンテスト等のコンテストの実績および理科部の研究活動の向上をめざす。					

研 修	教育研修	今日的な課題に関する職員研修を充実し、指導力の向上を図る。	本校の3つポリシー、育成したい6つのキー・コンピテンシーについて、共通理解を深める校内研修会を実施する。			
			職員・生徒の健康、安全の維持に関する校内研修会を実施する。			
			経営委員会と連携して学校運営に資する主任主事研修会を実施する。			
		活用力・課題発見力・創造性の育成に資する取組を行う。	各教科と連携してコンピテンシーの育成に関する研究テーマを設定した授業参観週間・研究授業を実施する。			
			県教育センター主催等の外部研修会や他校公開授業への参加およびeラーニングの活用を促進する。			
			SSH推進班と連携して「論コミ」に関する職員の指導力の向上を図る。			
挑戦する力・国際性・コミュニケーション能力等の育成に資する取組を行う。	情報化推進委員会・SSH推進班と連携して、ICT機器やAIに活用できる教具の活用を促進する。					
	資質・能力の育成方法およびその評価方法に関する情報を提供する。					
	教育実習生に対する研修班による指導を改善し、指導の効率化と実習担当教員の時間的な負担軽減を図る。					
学 年	第1学年	基本的生活習慣の確立	共感的人間関係を育成し、生徒一人一人の自己存在感を持たせる。			
			掃除、挨拶をきちんとさせ、社会的な常識を定着させる。			
			無意味に過ごす時間を無くし、リズムの良い生活習慣を身につけさせる。			
		基礎学力の確立	授業に集中させ、予習、授業、復習のサイクルを徹底させる。			
			家庭学習の時間を最低3時間確保させ、自主的、積極的に学ぶ姿勢を確立させる。			
			大学入学共通テストと次期学習指導要領の概要を理解し、自ら探究する生徒を育成する。			
	進路意識の向上	自分自身の個性や将来の希望をしっかりと見据え、キャリア教育部と連携しながら的確な文理選択をさせる。				
		個人面談などを通じて志望よりさらに高い志望を持たせ、そのためには今何をすべきかを考えさせる。				
		学校行事や部活動に積極的に取り組み、充実感や達成感を味わうことで人間性を高めさせる。				
	第2学年	基本的生活習慣の体得とたくましさの育成	1年次に引き続き、家庭と連携し、安易な遅刻・欠席をさせない。			
			日常生活において、主体的に考え・判断し、行動する力を身に付けさせる。			
			本気で学校行事や部活動に取り組み、中堅学年としての役割を認識させる。			
		基礎学力の定着と向上	予習・復習を核とする、自主的な学習形態の確立を図る。			
			習熟度別授業や課外等を活かし、基礎学力の定着・向上を図る。			
			小テスト等を中途半端に終わらせない。			
進路目標の決定	HR・学年集会・進路便りなどを通して、適切な情報提供を行う。					
	さまざまな進路行事や個人面談を利用して、高い進路目標を持たせる。					
	SSH事業への積極的な参加を通して、進路目標の具現化に活かす。					
第3学年	基本的生活習慣の徹底と挑戦する力の育成	適正な身だしなみや挨拶・言葉遣いなど、「社会人」として通用するマナーを身につけさせる。				
		学校行事・部活動に協働して粘り強く取り組み、挑戦する力を育成する。				
		私物の管理、ロッカーの使用を適正に行わせ、盗難の起きない雰囲気と環境を作らせる。				
	基礎学力の完成と応用力の育成	9クラス編制、習熟度別クラス、習熟度別授業を生かして基礎学力の完成と応用力の育成を図る。				
		実体に応じたアクティブ・ラーニング型授業で知識・技能を活用する能力を養成する。				
		自習室を積極的に活用させ、部活動引退後は自宅学習・週40時間を確保させる。				
希望進路の実現	現在の志望を維持させ、最難関大学20名、九州大学110名の受験を目指す。					
	継続的な個人面談を通して、高い志望の維持をサポートする。					
	HR・学年集会・進路便りなどを通して適切な情報提供を行う。					
事 務	事務室	明るく開かれた質の高い行政サービスの提供を目指す。	爽やかで明るく丁寧なサービスの提供（接遇）に努める。			
			公平・公正・適正な事務業務の執行を図る。			